

会 議 録

- 1 会 議 名 第3回北九州市送迎保育ステーション試行事業に関する
検討懇話会
- 2 会 議 種 別 市政運営上の会合
- 3 議 題 北九州市送迎保育ステーション試行事業に関する意見
交換
- 4 開 催 日 時 令和7年7月22日（火）10時00分～11時00分
- 5 開 催 場 所 北九州市役所本庁舎5階 特別会議室B
（北九州市小倉北区城内1番1号）
- 6 出席者氏名 （1）構成員
東 裕美子、伊賀良 昌宏、高原 恵子、山本 佳代子
（2）事務局
岩村子ども家庭部長、鈴木こども施設企画課長、
伊藤指導支援担当課長、上原保育施策担当係長
和田企画係長
- 7 次 第 （1）開会
（2）北九州市送迎保育ステーション試行事業について
（3）意見交換
（4）閉会

8 会 議 経 過（発 言 要 旨）

○保護者の負担軽減を目的とした事業であり、保護者にとってはある程度助かったという結果が出る可能性が高いと思うが、こどもにとってどうだったのかという視点も大事。

○効果測定のためにアンケートを実施するのであれば、ステーションを利用したこどもの育ちや変化等が見えるような設問も加えてみてはどうか。

○例えばバスの乗降や移動による負担の有無や、ステーションでの活動が短時間のため、保育が途中で途切れることによる影響など、参加したこどもがどう感じたか、３歳以上であればある程度自分の気持ちは表現できると思うので、出来る限りそれを集めることを考えてほしい。

○保育園、保護者だけでなく、こども目線での効果測定や事業の振り返りを行うことを意識してもらいたい。

○預かりや送迎の途中で体調不良のこどもが出ると対応が難しくなる。様々な状況を想定し、どのように対応するかを関係者間で共有しておくことが大事。

○駐車場の準備や動線の確保等を勘案すると、試行事業として複数の利用園を設定することは困難だと思う。

○保育の質がクローズアップされていく中で、保育所が遠い場所であっても「あそこに通わせたい」という保護者が増えていく可能性がある。そうになると、事業の成り立ちの趣旨とは違うかもしれないが、将来的にはこういった事業を必要とする保護者も一定数出てくるかもしれない。

○ステーションからバスの乗降場所までの徒歩移動や、バスの車内、あるいはステーションでの預かり中など、それぞれの場面における責任の所在は明確にしておく必要がある。